

【From Kobe 2014. 8 月】 ひまわりの夏 2014 到来

《1》「私雨」「得意傲然」を排して

《2》「NHK スペシャル」『東日本大震災 復興 正念場の夏』 ～"建設バブル"と被災地～ を見て

2014.8.1. by Mutsu Nakanishi

《1》「私雨」「得意傲然」を排して

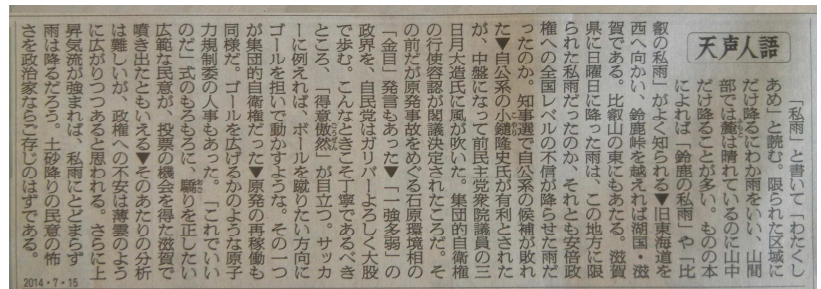


先日 2014 年 7 月 15 日（火）朝日新聞の天声人語に滋賀県知事選で自民党系候補が敗れたことについて
こんな記事がありました。

「私雨」と書いて「わたくしあめ」と読む。

限られた区域に降るにわか雨をいい、
山間部では麓が晴れているのに山中
だけに降ることが多い。……………

「一強多弱」の政界を、自民党はガリバーよ
ろしく大股で歩む。



こんなときこそ丁寧であるべきところ、「得意傲然」が目立つ。

サッカーに例えれば、ボールを蹴りたい方向にゴールを動かすような。その一つが集団的自衛権だった。

原発の再稼働も同様だ。ゴールを広げるかのような原子力規制委の人事もあった。

「これでいいのだ」式のもろもろに、驕りを正したい広範な民意が、投票の機会を得た滋賀で噴出したともいえる。

政権への不安は薄雲のようにひろがりつつあると思われる。上昇気流が強まれば、私雨にとどまらず雨は降るだろう。

土砂降りの民意の怖さを政治家ならご存知のはずである。

2014 年 7 月 15 日（火）朝日新聞の天声人語より 抜粋

「私雨」・「得意傲然」 うまいこと表現するなあ・・・ こんな言葉があったのか・・・と。

「鈴鹿の私雨」に「比叡の私雨」は有名だと。

今我々が眼にするのは「私雨」なのか それとも「全国レベルの土砂降り」の前兆なのか・・・

でも 安倍政権の顔に「得意傲然」が益々眼につくと……………。

一極集中 誰かのおこぼれを待つなんて もう沢山。

みんながみんなに明るさが届く政治へ早く舵をきってほしいもの。

8 月 ひまわりの夏到来

真っ青な空に向かって背を伸ばし、一斉に太陽を見つめる黄色い元気な顔・顔・顔

「私雨 なんて 吹っ飛ばして そんなひまわりの夏」へ

頭を空っぽにして 明るいひまわりを見つめてみては・・・

2014.8.1. From Kobe by Mutsu Nakanishi



佐用のひまわり畑で 2014.7.22 佐用町林崎で



佐用のひまわり畑で 2014.7.22 佐用町林崎で



佐用のひまわり畑で 2014.7.22 佐用町林崎で



佐用のひまわり畑で 2014.7.22 佐用町林崎で



佐用のひまわり畑で 2014.7.22 佐用町林崎で



佐用のひまわり畑で 2014.7.22 佐用町林崎で



佐用のひまわり畑で 2014.7.22 佐用町林崎で



2014.7.22 小野市ひまわりの丘で

7月25日夜「NHKスペシャル」

《2》『シリーズ東日本大震災 復興 正念場の夏』 ～“建設バブル”と被災地～ を見て

2014.7.26. by Mutsu Nakanishi

7月25日夜「NHKスペシャル」で『シリーズ東日本大震災 復興 正念場の夏』 ～“建設バブル”と被災地～が放送。

先日旅した三陸沿岸 東日本大震災被災地の様子が映し出されていました。

得意満面 自己陶醉としか見えぬ安倍首相やオリンピック バブルに沸く東京と対比して写される被災地の現実の厳しさに涙と共に悔しくて悔しくて……。

先日三陸沿岸を旅した時には「できるだけ、厳しいところは自分の胸に。 明るい方向が見えることを伝えよう」としてきましたが、現実はこのことにひどいとは……。

先の衆参両院選挙 自民党公約は「震災復興が第一」これは今どこからも聞こえない。
東京オリンピック そのもののアピールポイントは
「震災から復興した日本・東北の姿を世界にみせよう」
この声はそれを声高に叫んだ人たちからも全く聞こえず、「オリンピックを成功させるために未来都市東京」がいつの間にか旗印に。
アベノミクス 全国の公共工事のバラマキや東京五輪などで、全国で建設工事のラッシュ。
人材や資材が不足し高騰。原油の高騰もあって、建設コストが30%以上にあがっている。
しかも仕事は都市圏集中でいくらかでもあると。 まさに建設バブル。
震災前の「コンクリートからヒトへ」はどこへ行ったのか・・・
被災地では 復興事業の「入札不調」がもう常態化 生活復興の基盤となる復興事業がもうどうにもならぬ事態に。
被災地の人たちの悲痛の叫びそして無力感が益々増幅しているこの現実
「復興はさらに遅れ、生活復興の目標もほごに」「時間がない 東北は忘れられつつある」と

今 被災地では個人・復興住宅とわず、住宅再建が一向に進まぬという。

原因はオリンピック・景気刺激のための東京・都市圏公共事業集中投資での建設バブルにより、被災地の建設建築現場に全く人が集まらぬという。 5年間での集中生活復興の目標はすでに絵に描いた餅に。

復興住宅はいまだに計画の 1/4 そして建設費の沸騰・人材不足で 被災地自治体が行う事業入札では不成立が常態化し、さらに入札参加者すらゼロの状態が続く一方、15 万を超える仮設住宅生活者に多数の他府県避難者をかかえる被災地ではいまだに住宅高台移転地 沿岸部嵩上げ工事が進まぬ空地が目立ち、土地利用計画そのものが、未だに立っていないとが多いという。

一方、安倍首相の胸の内は判らぬが、なんと海外出張の多いことか…… それもトップセールスと称して大企業団体の代表者を引き連れて……。 集団自衛権の憲法解釈変更の強引さ「九州川内原発は何とかしますよ」との企業家への発言等々。

あの前政権時代のひよわさ・人の好さは影を潜め、一般国民を忘れ、仲間内の政治に走っているとしか見えぬ。

「自分の身は自分で守る」と簡単に言うが、生活基盤があって安定していない人たちにゆうのは酷。

生活基盤を奪われた人たちの基盤修復には時間を割かず、仲間内政治に走る。

今ほど「頂点迎合主義」の危うさが見得ているときはなし。

番組の中で被災者たちが異口同音いう悲痛の叫びとしか言いようのない言葉が、耳をはなれませんでした。

「東北はもう 忘れられつつある このまま忘れ去られていく」

「希望の5年間復興を信じてきたが、さらに待てというのか…… 我々にはもう時間がない」

また、同じく派遣労働に苦しむ人が 労働人口の約4割にも達し、そのしわ寄せが弱者にひたひたと……

「弱者」と言われても自分は… と思っていましたが、最近はその現実が自分の直ぐ傍で、眼にする機会が多くなった。

「牛丼すきや」の話もそうだ。 パワーアップと称しての強がりの中「パイトの働き手が集められず、店が開けられぬ事態に」それも1ヶ所や2ヶ所ではなく、全国で……。

中国や東南アジア近隣の話とと思っていましたが、ついにすぐ近所で……。 次を考えると恐ろしくなる。

一方 被災地の先を見据えた現実としてこんな声もある。

今、被災地の一番の難題は被災地のそこで生きて行くための雇用や生業再建に必須の津波襲来地域での土地利用。それがいまだにできないこと。都市計画など土地利用がハッキリせず、企業も個人事業主のヒトも非住宅としての何も建てられない状況で、産業再生から生業も雇用への流れが生まれぬ悪循環におちいつているという。

仮設の老朽化もありますが、この先、高台工事が終えて、平地に土砂が埋め立てられまでこの先、「住宅が建てられる」までには、長いところで3年以上はかかるところが沢山ある。

住民・自治体そして被災地の地場企業 それぞれが、疲弊しきって、目標も失い、無力感が漂中、「住宅再建」、「災害公営住宅」とともに、とりあえず急がなければならないこの緊急課題の実践に政権の中核が自ら取り組まないと被災地ではどうにもならない。

今 無力感の中に住民たちはいる。

機会があれば 是非「NHKスペシャル」『東日本大震災 復興 正念場の夏』～“建設バブル”と被災地～をご覧ください。

◆ 参考 番組紹介 2014年7月25日 放送「NHKスペシャル」
『シリーズ東日本大震災 復興 正念場の夏』～“建設バブル”と被災地～
「NHKスペシャル」 NHK 番組PR 紹介より



復興工事現場に工事に携わる人の数が本当に少ないのに驚き NHK 番組PR 紹介より
震災からの復興で大きな課題となっている「住宅の再建」。

いま思わぬ壁が立ちはだかり、先行きに暗雲が立ちこめている。全国で起きている「建設バブル」だ。

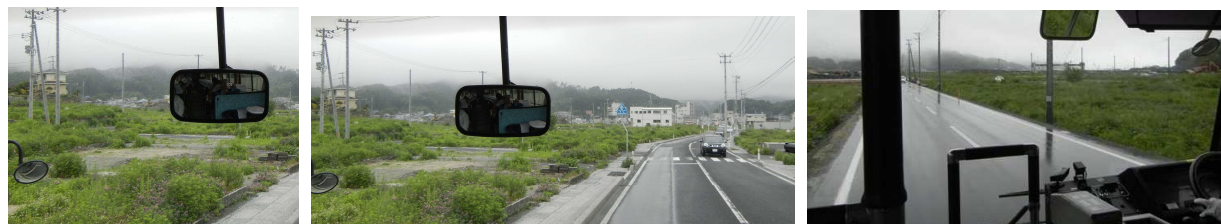
各地で公共事業が増加し、景気回復に伴いマンション建設なども進む中、住宅再建に必要な「人材」が不足、コンクリートなどの「資材」も高騰し、復興を思うように進められないことになっているのだ。

こうした事態に手をこまねいて復興を遅らせていいのか・・・。

災害公営住宅の建設が今年ピークを迎える宮城県の担当者、住宅再建を担う地元の業者、そして自宅の再建を目指す被災者はそれぞれ、強い思いを抱き、様々な困難にぶち当たりながら「危機的な状況」を乗り越えようと苦闘を続けている。しかし、2020年に東京五輪が控えるなど、人材と資材の全国的な不足と値上がりが当分続くと見込まれている。

この夏、住宅再建に走り回る男たちにカメラが密着。現場のルポをみつめながら、正念場を迎えている「復興」の進め方を考えたい。

インターネット NHK 番組PR 紹介より



ここに街があり、生活があった 津波から3年の現実 2014.6.8. 三陸沿岸の旅より